

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全額交換留学 派遣先大学: 香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

香港大学、香港薄扶林にある。中心地のセントラルからバスで20分ほどだが、2014年末に地下鉄香港大学駅が開通し、より便利になった。香港のトップ大学である。

留学した動機

博士論文の執筆にあたって、香港で資料収集および学術交流をするため。また、香港大学の研究者にアドバイスをいただくため。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[2]年の[1]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年9月～2014年12月 学部/修士/博士[2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[3]年の[夏]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[16]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[4]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月修了予定
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
春の留学に続いて、合計1年間の留学となるようにした。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課を通して行った。手続き自体も非常に簡単で、特に困ることはない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは国際交流課の指示に従って書類を準備すれば良い。書類が多少面倒だが、アメリカほどではない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

かなりしっかりした保険に入った。留学に際して、保険に入るのは必須のようです。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

研究科の事務に海外渡航届けを提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLは二年前の結果を使ったので、実際の英語レベルはわかりませんが、上半期に英語圏に留学をしていたので、ある程度準備はできていた。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

普段愛用しているものがあれば、それで結構だと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

なし

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学中は、博論執筆の準備でしたので、大学の図書館や他大学の研究所で資料を漁っていました。それ以外には、論文や本を読み、文章をかく日々です。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
ほとんど自己学習なので、時間数は計りづらいですが、だいたい毎日昼間は研究活動をしていました。

④学習・研究面でのアドバイス

香港大学は、研究環境がよく、資料も豊富です。アメリカは遠いけど、香港は近いので、ハードルも低く、留学先としては大変いい選択肢だと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

語学はとくに苦労しなかった。授業は英語ではあるが、研究活動が中心だったので、実際には中国語によるコミュニケーションも多かったです。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の宿舎にすんでいました。家賃は、1学期約10000HKDで日本円15万円ほどです。2011年築なので、とてもきれいでした。宿舎は入るのが厳しく運次第です。香港留学で一番困難なのは住環境を確保することだと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏は暑く、冬は少し肌寒いです。10月から11月あたりはとても快適です。大学は山の上にあるので、大学周辺にはたいしたものはありません。しかし、年末に地下鉄が開通したので、交通は便利になったと思います。宿舎は山の上にあったので、食事のたびに山を降りるのは辛かったのですが、山の下のケネディタウンはそれなりに食べ物が充実しています。お金は、国際キャッシュカードを使って、香港ドルで引き出せる日本の銀行口座を使っていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

香港は非常に治安がよく、心配は必要ありません。留学中、香港の中心部で民主化要求デモが続いていましたが、まちが大きな混乱に陥ることはありませんでした。医療機関は使わなかったの、わかりません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月の生活費は家賃、食費などを合わせて日本円で7万くらいでした。

・留学に要した費用総額とその内訳

交通費、生活費などを含めて、留学に使ったお金は40万円ほどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大に全額交換留学用の奨学金をいただいていた。毎月7万円で、生活するには十分だったと思います。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジムが無料で利用できるの、週に2、3回体を動かすようにしていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生へのサポートは非常に充実しています。留学生全員にメンターとよばれるローカルの学生パートナーを振り当て、サポートできるようにしています。私も何度か食事し、大事な友人になっています。語学面では、私は利用しませんでした。広東語や中国語普通話のクラスがあったようです。生活面では、宿舎には当直やチューターがおり、不安はありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

設備も非常に素晴らしいです。図書館は蔵書や資料が多く、利用しやすいです。ジムも無料で使えます。文系はキャンパスの西側にある新築の敷地を使っており、綺麗な建物で勉強できます。大学構内の全体をWiFiがカバーしており、ネット接続も快適に利用可能です。ただ、食堂があまり美味しくありません。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

研究者を目指しているの、資料を集め、香港の学者と交流できたという意味では、メリットが十分にありました。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

特にありません。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特にありません。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

香港で多くの友人を得ることができました。資料を集めることもでき、香港の研究状況も把握できました。研究者としてとても貴重な経験ができました。

②留学後の予定

博士論文の執筆に集中する予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

香港は素晴らしいところで、香港大学は素晴らしい大学です。ぜひ勉強にいらしてください。香港でなくても、留学はとても実り多いものであるはずです。チャレンジあるのみです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学のホームページなど。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

香港であった民主化要求デモの現場写真です。



東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 法学部第1類3年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: 香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 2. 専門職(法曹)

派遣先大学の概要

香港大学の Faculty of Social Sciences で主に中国政治を勉強していました。留学生向けの広東語のクラスも受講していました。授業は全て英語で行われます。

留学した動機

言語も文化も異なる海外の大学で自分を試してみたかったことが一番の理由です。授業が英語で行われていること、アジアに関心があったことが決め手となり香港大学を選びました。

留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 留学
- ③ 留学期間: 2014年 9月 ~ 2014年 12月 学部[3]年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部[4]年の[夏]学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[48]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[6]単位
留学後の取得(予定)単位[38]単位
- ⑦ 入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由:
留年を回避するため、また院試や資格試験の勉強のため1年でなく半年にしました。

留学の準備

① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

3月に Office of International Student Exchange(OISE)からメールが届きます。その指示通り OISE のホームページから Online Application を行います。改めて志望理由等を書いて提出する必要はありませんでした。所定のファイルをダウンロードして記入し、ウェブ上で提出するという形です。6月上旬香港大学から正式な Admission Letter がメールで届きました。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

香港大学の CEDARS という機関が Student Visa 取得の手続きをしてくれます。香港大学の Office of International Student Exchange(OISE)の指示に従って必要書類をメールやウェブ上で提出すればよく、直接大使館に赴く必要などはありません。申請してから Visa が FedEx で自宅に届くまでは6-8週間ほどです。私は6月上旬に申請し、8月に入ってから届きました。申請の際、銀行の残高証明書やクレジットカードのコピー等も必要となるので余裕を持って用意しておくといいでしょう。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にありませんでした。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIUの海外留学保険に加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部に留学許可申請書と、その添付書類として香港大学の Admission Letter、留学の目的、履修予定科目の概要説明、(あれば留学先の便覧の類も)を提出しました。7月上旬の学部長面接を経て、教授会で留学承認、という流れでした。帰国後教務課で申請をして、一部2014年度冬学期末試験を受けることができました。留学先での取得単位認定は、成績証明書などと共に所定の書類を提出して申請します。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学開始の1年前に受験した TOEFL はたったの80点ほどでした。出発直前期もあまり時間を割くことはできませんでしたが、リスニングは意識的に練習していました。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

香港では日本の製品が容易に手に入るの、特に持参した方がよいものはありませんでした。出発前にやっておくべきことは、やはり英語レベルの向上、特にリスニング力をつけることだと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Public Administration in China ●

Chinese Identities and Global Networks

Public International Law ●

Cantonese ●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

主に中国の政治を勉強していました。香港という土地柄、授業では中国の内外両方の立場から考察することができ非常に有意義でした。基本的に1授業につきlectureが週2時間、tutorialが週1時間というスタイルが多かったです。tutorialはチューターのもと少人数でディスカッションやプレゼンを行うクラスです。tutorialでは勿論、lectureでも教授と生徒の双方向のやり取りが多く刺激的でした。予習としてしばしば論文を読んでくれることが課されます。1授業当たり週に30~100ページ程だったと思いますが、すべて消化するのはかなり大変です。Public Administration in Chinaのtutorialではグループワークがあったのですが、香港大学はplagiarism(剽窃)について厳格な規則を設けており、グループメイトたちに何度もチェックを受け厳しいコメントをもらったことが印象に残っています…。Cantoneseは留学生ばかりの和気藹々とした雰囲気、授業で飲茶に行くなど大変楽しいクラスでした。日本の英語教育と真逆の、ListeningとSpeakingに特化した(なので漢字は一切使いませんでした)授業は新鮮でかつ実用的でした。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

(科目名/単位数/週あたりの授業時間/週あたりの授業外学習時間)

Public Administration in China 6/lecture2h,tutorial1h/8h

Chinese Identities and Global Networks 6/lecture2h,tutorial1h/2h

Public International Law 6/lecture3h/2h

Cantonese 6/lecture4/2h

④学習・研究面でのアドバイス

政治系の授業であれば、膨大なReading Assignmentにできるだけ取り組むことが大事です。予習することによって授業の理解度も、議論への参加度も、そして楽しさも飛躍的に向上すると思います。またグループワークがある授業を取ることをお勧めします。慣れるまでは大変苦労しましたが、容赦なく意見をくれる仲間に恵まれて良い経験となりました。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

知っているはずの知識も、用語が英語になることでまったく歯が立たなく、苦労しました。私の場合、中国共産党=CCP(Communist Party of China)さえも知らずゼロからのスタートでした…。香港大学の学生は英語が堪能で、また欧米からの留学生も多くいたので、はじめの頃は自分の拙い英語が恥ずかしくなかなか議論に参加できませんでした。とにかく日々研鑽を積むこと、あとは勇気をもって飛び込むのみだと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

出発前に一番苦労したのが宿泊先の手配だったかもしれません。OISEを通して寮の申し込みをしましたが抽選に外れてしまい、Facebookの香港大留学生ページでルームシェア希望者を募りインターネットで家探しをしたりしました。しかしその後運良く大学が提供するResidential College(RC)から入居可能との連絡があり、出発までには宿泊先を確定することができました。共用のキッチン・バス・トイレが各フロアにあり、部屋は二人部屋でオランダ人留学生と一緒に住んでいました。RCはHall(いわゆる寮)に比べて強制参加のイベントは少なく、また香港人の学生も留学生も住んでいるため交友関係を広げることができ、ルームメイトに恵まれたこともあって非常に快適でした。施設自体も新しく非常にきれいです。大学まではRCから出ているバスで通っていました。歩いても20分ほどの距離です。家賃は1学期間で約8000HKDでした。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

9月~10月前半頃までは高温超多湿ですが、それ以降は適度に暖かく過ごしやすいです。蚊の多さと生息期間の長さには辟易しました…。香港は公共交通機関が充実しておりタクシーも安いので移動に困ることはありません。食事についても、大学内に沢山食堂がありますし、RCや大学付近は手ごろな値段の飲食店が多くまたスーパーもあったので問題ありませんでした。クレジットカードと現金の両方を使用しており、現金については日本の口座からデビットカードで降ろしていました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

2014年9月末民主化デモが発生し大々的に街中心部での座り込みが行われていた時期は警戒していましたが、宿泊先や大学付近は至って安全で、一度蘭桂坊という繁華街でスマートフォンのスリに遭ったことを除けば、全滞在期

間を通して危険を感じることはありませんでした。治安はよく、夜遅い時間帯に出歩いてもあまり心配はありません。大学内の保健センターを含め香港の病院では大体英語が通じます。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

訳 15 万円(うち家賃 3 万円、食費 5 万円、交通費 1 万円、生活用品 1 万円、その他 5 万円)

・留学に要した費用総額とその内訳

航空費 20 万円

生活費 60 万円 等

総額約 100 万円

(授業料は東大に納付)

④ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していません。

⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

2014 年 11 月 29・30 日に上智大学で行われた大学対抗交渉コンペティションに、香港大学代表として現地の学生らとともに参加しました。そのため約 1 か月強を費やし仲裁・交渉の課題に取り組みました。週末や放課後は留学生の友達と一緒によく出掛けており、10 月中旬の Reading Week という 1 週間の休暇を利用し、ベトナムに旅行したりもしました。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

出発前の手続きから渡航後のサポートに至るまで OISE 等が手厚くサポートしてくれました。8 月の最終週から 9 月上旬にかけて Welcome of Week と題して行われる留学生のための多種多様なイベントや、留学生のための Facebook ページ、現地学生のバディー制度等があります。留学生向けの広東語の授業も充実していました。ただ留学生が履修できる授業の種類にはかなり制限があります。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

24 時間利用できる図書館、PC 完備の自習用の施設、学内及び寮や地下鉄の駅で使用できる University Wifi、無料で利用可能なジムなど、設備は極めて充実しています。キャンパス内のいたるところに様々な食堂があり、銀行・ATM もあります。

留学と就職活動について

① (就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

院進のため就職活動は行っていません。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

学習面では、日本とは異なる視点から中国および香港政治について見識を深めることができました。またディスカッションやプレゼンテーション、英語でのエッセイ作成スキルは確実に向上したのではないかと思います。折しも香港で発生し多くの友人も参加した民主化デモは、中国・香港の実態、学生デモの長短、マスメディアの影響、自身の政治に対する考え方など、様々な事柄について思索する機会となりました。交渉コンペティション参加といった課外活動への主体的な参加も今回の留学の大きな成果の一つです。法曹志望にも関わらず日本の法律が学べるわけではない留学をすることには元々多少の躊躇いがありましたが、多様な価値観を持つ人々との交流、またその存在を肌で感じることで、そして文化も言語も異なる場所で適応していくことのように、行って初めてその意義に気づくこともあるのだ、というのが率直な感想です。香港で出会った世界各国の友人とは現在も交流を続けており、私のかげがえのない財産です。

② 留学後の予定

法学部での勉強を再開し、卒業後は大学院に進む予定です。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学先での勉強を有意義なものにするためにも確かな語学力を身に付けておくといと思います。また留学することが決まった際には、ただ海外で生活していることに満足せず、目標を設定し、メリハリのある生活を送ってください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

アジアの経済の中心地ともいえる香港にある、地域で最も評判の良い総合大学です。香港の現地学生に加え中国本土や台湾からの留学生も多く、またその他のアジア各国や欧米・中東・アフリカからも留学生が多数来ている、極めて国際化の進んだ大学として知られています。

留学した動機

第一に非英語圏ながら英語教育を行っているという点で自分の語学能力を向上させる際に参考になると思い、香港での英語教育を受けてみたかったこと、第二に勤勉といわれる中国人・香港人学生と同じキャンパスで勉強し科学について学ぶことが自分の学問に対する姿勢への刺激になるということです。

留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦2014年 学部4年の夏学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 留学
- ③ 留学期間: 2014年 9月 ~ 2015年 5月 学部4年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦2015年 学部4年の冬学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 大学院進学予定
- ⑥ 留学での単位数: 留学前の取得単位82単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位14単位
留学後の取得(予定)単位3単位
- ⑦ 留学・卒業/修了(予定)時期: 西暦2011年 4月入学 西暦2016年 3月卒業/修了
- ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: 5年0ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由: 学部で留学できる最後の期間であること、香港大学と東京大学の交換留学が始まったばかりでありそれ以前の選択肢が無かったこと。

留学の準備

- ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
東京大学での交換留学の手続きを終えた後は、香港大学宛に書類提出、インターネット上での登録を行いました。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザの手続きは香港大学の事務所で代わりに行ってもらうことが出来ました。手続き費用はかかりますが、自分で大使館に向く必要が無いので非常に簡単でした。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
予防接種などは特に行いませんでした。日常的な風邪薬などを持っていきました。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
AIUの海外留学保険に加入しました。13万円程度かかりました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
留学出発後に一つ試験が残っていたので、教授と相談してレポートで成績をつけていただきました。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
英語はTOEFL80点、その他中国語(北京語)を第二外国語として教養1・2年次に学習した程度でした。
- ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
大学内では英語ですが、街中では広東語(北京語ではない)であり、現地の学生は英語より広東語を好んで話すため、広東語の学習と教科書持参は半ば必須事項だと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Computational chemistry
- Chinese as a foreign language
- Numerical analysis
- Laser and spectroscopy
- Directed studies in phys.
- Computational physics
- Data & mod. in phys.
- Adv. classical mechanics

成績未発表のため、今後申請予定です。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

理系の授業で生徒が課題(Project)を設定してレポートを書き、発表を行うという形式が多く印象的でした。自分の考え次第で難易度も変わってきて、実際の研究に近いものを授業を通して味わうことが出来ました。また、香港大学では毎学期5授業ほどしか履修しないため、予習復習は日本時代より必要とされました。授業で出される課題の数も多かったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期5授業30単位が基準とされているようで、私自身は4授業24単位を毎学期取得しました。1授業あたり週に3時間程度の講義があり、毎週数時間の自習が必要とされます。また、授業以外にも研究室に通って実験をしていたため、授業以外の平日日中の時間帯は基本的に実験室に行き実験または論文読みを行っていました。

④学習・研究面でのアドバイス

Projectのある理系科目では他の学生の発表を聞く機会もありましたが、ほとんどの学生がレベルの高い発表を行っていました。発表までは他人の進捗具合など知る機会が少ないですが、手を抜かずにきっちりと準備する必要があります。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

2学期間授業を受ける中で、英語の講義を受けることについては段々慣れて行きました。ただし非英語圏のため、非常に分かりにくい英語を話す教員もいるため授業選択の際には注意が必要です。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学付属の寮で9ヶ月間生活しました。家賃は毎月2万円程度で、大学外で借りるよりはだいぶ安く抑えられます。寮の申し込みは大学から案内が届き、インターネット上で行いました。私が住んだ寮は現地の学生の伝統が強い寮で、必ずしも留学生にとって住みやすいものではなかったですが、聞くところによると寮毎に個性があって学生の性格も大きく変わってくるということです。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

暖かい気候なので寒くて風を引いたりすることは無いのですが、室内の冷房は強すぎるので注意が必要です。にわか雨が多いため傘を常備し、また湿度が高いためカビに気をつける必要があります。大学周辺は食事を出来る場所も多く、地下鉄駅も近くにあるため非常に便利です。日本食も簡単に手に入るのであまり不便を感じたことはありません。お金は現金で持って行って現地で両替しました。現地の銀行口座を作るとどこでもATMが使えるので急遽お金が必要なときも安心でした。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺の治安は極めてよく、真夜中に図書館から寮まで30分歩いて全く身の危険を感じないほどです。繁華街ではスリなどに気をつける必要はありますが、基本的には安全です。現地には日本人向けの医療機関があるので、保険に入っていれば日本人向けの医療機関が最も安心だと思われます。大学にも保健センターがあって気軽に受信できますが、祝日など閉まっている日があったので注意が必要です。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃や食費、交通費など不可欠なもので7万円程度で、他に娯楽費(外食など)として2万円程度かかりました。

家賃:2万円、食費:4.5万円(学食で3食1500円程度)、交通費:5000円(キャンパスまでバス往復150円)

・留学に要した費用総額とその内訳

毎月の生活費9か月分と、以下の費用を合算して110万円程度かかりました。

航空賃:4万円、正月に一時帰国の費用:5万円、教科書代:1万円、現地での服類や日用品調達:5万円、留学保険:13万円

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO:7万円/月

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

中国人との言語学習会(日本語・中国語)に参加しました。長期休暇や週末の暇な時間には中国大陸の旅行や、香港内の探索をして回りました。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語や広東語が不安な場合は、大学のプログラムとして勉強会があるので参加することができます。また、Buddy 制度があり留学前に日本語の話せる学生からコンタクトがあったため、安心して現地に渡ることが出来ました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は英語の書籍が数多く揃っていて、学習スペースもきれいで ICT 設備も充実しています。また 24 時間空いている学習部屋があるので、いつでも気軽に勉強することが出来ます。食堂は中華料理のみならずベジタリアンや中東向けのレストランもあり、キャンパスとして国際化が進んでいることを実感しました。ジムなどのスポーツ設備は交換留学生なら無料で利用することが出来ます。



留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学中の生活では、日本語から離れて言語面で苦勞するだけでなく、各国から来ている学生の多様な価値観に触れることもできました。学業面では英語を通して学問をすることの難しさや、実験を行うときの苦勞を体感しましたし、学業以外の面では大規模な社会運動(香港デモ)を目の当たりにし、社会と個人との関わりについて深く考えさせられました。また、長期間日本を離れるということは初めてだったのですが、他国の学生に自分の国について語り合う中で、日本という母国を見つめなおす良い機会にもなりました。

② 留学後の予定

今年大学院を受験する予定ですが、8 月にある日本の院試と、冬にあるアメリカの大学院の院試両方の準備をしようと思っています。もともとアメリカなど外国の大学院で勉強してみたいと思っており、今回の留学で海外の院に進んだ場合の学業・生活面での不安は減らすことが出来ました。留学中に、理系分野での東京大学の強さというのも再確認させられましたし、日本・日本語から離れることのデメリットがあることも痛感し、まだ進路を決められていないので、冬までに良く考えて進路決定しようと思っています。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外滞在経験が全く無い場合は、留学というと難しく考えがちですが、一歩踏み出してみることでものの見え方がガラッと変わると思います。また香港は文化的・語学的に日本人には馴染みやすい街で、黙っていれば周りの人から外国人であると認識されない場合もあります。それゆえに如何に自分が行動し、発言するかが、滞在中の生活で得られる経験の質に深く関わってきます。

その他

① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

HKU office of international student exchange (<http://www.als.hku.hk/admission/exchange/>)

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 経済学部4年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: 香港大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 商社) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

香港大学。アジア有数の名門大学で、東京大学やシンガポール国際大学などと肩を並べる。大学内はイギリス風の習慣や香港独自の風習などが入り混じり、独特の雰囲気を持っている。香港人と、中国大陸から来た中国人に加え、東南アジアや韓国などから来た最高レベルの学生が来る大学である。

留学した動機

小さい頃から両親にしばしば海外旅行に連れて行ってもらい、漠然といつかは海外で暮らしてみたいという思いがあった。特に香港には10回以上連れて行ってもらい、強い親しみがあつた。大学3年次に香港大学と東京大学のサマープログラムがあり、そこで香港大学で学ぶイメージが掴めたのも大きかった。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[4]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2014年 8月 ~ 2015年 5月 学部[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 履修予定なし
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部[4]年の[8]月頃に(行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[86]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[2]単位 留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [9]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[6]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
香港大学との交換留学が開始したのが自分が4年生の時だったので、その募集がオープンになった段階で迷わず応募しました。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
東大での選抜に合格したあとは、香港大学へ所定の書類を提出するだけです。ただ、煩雑なものも多いので、東大の所属部局と連絡を密にとり、いろいろ助けてもらうと楽。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
香港大学が代行してやってくれたので、必要書類を提出するだけでした。ただ、実際のビザの許可が下りたのは香港に着いてからでした。焦らなくても大丈夫です。最悪の場合観光ビザで先に入国してしまうのも手です。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特に何もしていません。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
クレジットカードの付属の保険を活用しました。タダで済んで良かったのですが、これでは補償等不安が大きかったので、皆様はしっかりと保険に加入することをお勧めします。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
5月に日本に帰国ののち、香港大学で取った単位を互換して同年9月の卒業を計画していたため、帰国後すぐに単位互換申請及び9月卒業願いの提出を行いました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEFL iBT 93点。英語の勉強は意識的に行っていましたが、日本で勉強するよりも現地で苦闘したほうが圧倒的に英語力が伸びるので、楽しみにしてください。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
特になし。香港は先進国なので、基本的になんでも手に入ります(日本食含め)

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

BUSI2811 Negotiation and conflict resolution

CHIN9512 Cantonese as a foreign language II

HKGS1001 Hong Kong's long twentieth century

HKGS2002 Hong Kong identities in local, national and global contexts

SOCI2015 Hong Kong popular culture

STRA3702 International business

CHIN9504 Chinese as a foreign language IV

HKGS2001 Speaking of Hong Kong: Global voices

HKGS2011 Hong Kong: Whose city is it?

MGMT3434 HRM- Theory and Practice

MGMT3475 Current topics in human resource management

MKTG3512 Brand management

(全て単位認定申請を行いました)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は、グループでの発表や、ペーパー提出が主として進むので、そのグループでの活動に置いてかれないように準備を必死に行いました。自分は文学部とビジネスの授業を受講しましたが、ビジネスの授業は特に大変でした。でも大変でしたが、楽しかったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期に6つの授業まで受講できます。現地学生は平均5つくらい授業をとるようです。自分はいきがって6つの授業を取っていたのですが、予復習が大変だったので、5つないし4つ程度を受講をお勧めします。

④学習・研究面でのアドバイス

現地学生がさらっとこなしてしまうような課題、テストであっても、英語があまり上手でない学生は何倍もの時間がかかってしまうのは普通の事です。しょうがないので、一つ一つ愚直にこなしていきましょう。現地学生よりも一生懸命勉強する覚悟を早めに決めるのが吉です。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

会話では問題なかったのですが、論文を読むスピードが遅かったため勉強に予想以上の時間がかかってしまい、大変でした。読み書きリスニングバランスよく勉強しておきましょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

香港大学は、寮に入るのが難しい(倍率が高い)ので注意です。寮の選考に落ちてしまった場合は、自分で不動産屋さんに行って住居を探す必要があります。日本からリモートで探す事もできますが、確実なのは香港に着いてから、大学のオフィスの方に手伝ってもらいながら不動産屋さんを回る事です。自分は、幸運にも Residential College という一つの寮に入る事ができました。寮ごとに明確にカルチャーが異なりますが、Residential College は比較的日本人でも受け込みやすいかと思えます。自分はこの寮での生活が最高に楽しかったです！

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

寮から大学までは頻りにバスが出ています。(所要時間5分ほど) 気候は日本の夏がずっと続く感じですが、慣れれば過ごしやすいです。お金に関しては、自分は新生銀行の口座を作り、日本で口座に入金してもらい、その口座から直接現地の ATM を通じて出金する形をとりました。このやり方は便利でおすすめです。携帯電話ですが、香港では SIM カードはとても安く買えるので(プリペイド式で月1000円程度)、SIM フリーの携帯を入手して現地でも 3G/4G 回線を確保すると良いかと思えます。(Wifi だけでのぐことも不可能ではないですが、現地学生との待ち合わせ等困ることが多いです)

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は問題ないです。心身の健康管理は丁寧にした方が良いかと思えます。留学生活は自分の予想以上に心に負担がかかるものだと思うので、いざ辛くなった時に相談できるような人間関係を作っておくのは意識して行うと良いかもしれません。自分も香港大学と一緒に留学していた日本人留学生と話すとなんか心が軽くなりました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月10万前後。

・留学に要した費用総額とその内訳

100万前後

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学より月7万緑の補助を頂きました。(給付)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

自分が所属していた Shun Hing College の Event Management Team(文化祭実行委員のようなもの)に属していたのと、そこで知り合った友人と学生団体を立ち上げたりしました。Domestic Helpers Empowerment Project というもので、香港に多くいるフィリピン人家政婦と香港大学生の交流を楽しむ団体でした。海外で団体を立ち上げるのは大変でしたが、とても得るものが大きかったです！

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

身の回りのことをお世話してくれる香港大学学生の Buddy がいるらしいのですが、自分は利用しませんでした。というか、利用の仕方がわかりませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館、自習スペース(Chi Wah Learning Commons という綺麗なスペース)、ジム等すべて快適です。Wifi も大学内ではどこでも通じます。食堂はイマイチおいしくないですが、キャンパスから少し出歩くと、美味しい料理屋さんがいっぱいあります。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

実際の就活の面接において、留学は大きな話のネタになったので、留学は就活にプラスになったとは思っています。自分は、5月末に帰国で8月から企業の選考活動開始(水面下では6月すぎには選考が始まっていました)でした。たしかに、自己分析や企業分析が他の人よりはできないかもしれませんが、明確なディスアドバンテージはなかったと思います。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

プレエントリーなど、リモートでできるものはしっかりこなしておくのと良いかと思います。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) ⑤民間企業(企業名又は業界:商社)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を経て、自分は日本人である前にアジア人であり、優秀な中国人や韓国人大学生と切磋琢磨をして勝っていかないといけない、という当たり前の(はずの)事実を肌で実感できたのが大きかったです。現地の学生は、英語で勉強することも、交換留学することも、大学入学の際に自分の国を離れることも朝飯前にこなしています。日本人として、東大生として、彼らには負けていられないと強く思いました。みなさんにもこの肌感覚を掴んでほしいな、と思っています。

②留学後の予定

3月までは海外インターンなどをしながらさらに見聞を広めていきたいと思っています。4月からは社会人生活です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

軽い気持ちでもいいので、まずは海外に飛び出してみましょう！そこから見えて来るものはとても多いはずですよ。困っていることがあったら、周りの人、大学の職員さんに遠慮なく相談しましょう。自分も相談に乗ります！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

